

神田 蘭

レビュー講談
Vol.11

講 談

演目

レビュー講談

樋口一葉伝

樋口一葉

にぐりえ

観相学講談もしちゃいます！

樋口一葉没後120年記念

5千円札で
おなじみの
一葉で〜す。

だからって、ご祝儀まで
5千円じゃなくってもいいのよ…テヘ

色に迷う人は迷えばいい
情に狂う人は狂えばいい

葉

劇

場

神田蘭HP
公演情報も
ご覧ください

2016年4月25日 月 開場/18:30 開演/19:00

千代田区立内幸町ホール 東京都千代田区内幸町1-5-1
電話:03-3500-5578(当日のみ)

【チケット】 ●前売:3,000円(税込) ●当日:3,500円(税込) 全席自由

【お問い合わせ】クリエイティーズ Free:0120-963-356(平日10:00~18:00) E-mail:info@createsees.jp

チケットの
お求めは

カンフェティ(Confetti) 通話無料・オペレーター対応 受付時間:平日10:00~18:00

0120-240-540 <http://confetti-web.com/>

主催:神田蘭 一葉劇場制作委員会



レビュー講談
Vol.11

スペシャルゲスト
あるかも

観相学講談もめちゃいます！



葉
劇
場

レビュー講談

樋口一葉伝

樋口一葉

にぎりえ

にぎりえ 樋口一葉

新開地の酒屋「菊の井」の一枚看板お力には、かつて蒲団屋の源七という深い馴染みの客がいた。源七はお力に入れあげた挙句破産してしまい、いまは妻子と侘しい長屋暮らしをしているが、お力のことが忘れられず時々会いにくる。そんな源七をお力は冷たくあしらう。

ある雨の日、お力は結城朝之助という客を店に呼び入れて、親しい関係になる。話を聞いてくれる朝之助にお力は源七のことも打ち明ける。

一方、源七は仕事も手につかなくなり生活は妻お初の内職に頼りきりになっている。そして源七とお初は、息子がお力から高級な菓子を貰ってきたことがきっかけとなって、激しい口論をし、遂にお初と息子は家を出て行く…。

樋口一葉（明治5年～明治29年）

生活に苦しみながら、わずか1年半の間に「たけくらべ」「にぎりえ」「十三夜」といった秀作を発表、文壇から絶賛される。24歳で肺結核により死去、没後に発表された『一葉日記』も高い評価を受けている。

女流講師 神田蘭（かんだらん）

二〇〇四年一月に神田紅に弟子入りし、〇八年六月二つ目昇進。

「ファイティングまつこ」をはじめ、婚活講談が話題になり「おはよう日本」（NHK）や新聞各紙で取り上げられる。その後、レビュー講談と名をうって、踊り・歌・コント・映像ありのエンタテイメントショー講談を創りつつづけている。

遠藤周作原作の「わたしが棄てた女」や、シエイクスピアの作品を元にした「劇談！マクベス！」などを発表し多くの観客を魅了している。メディアへも多数出演。著書に「恋する日本史講談」（ぶんか社文庫）がある。

寄席・講談会・イベントへの出演を中心に、「日曜バラエティー」（NHKラジオ第二）、JFN系列ラジオ「恋する日本史」（全国12局ネット）のレギュラー出演、雑誌「クロスワード」（笠倉出版）へのコラム連載など精力的に活動。

最近では、観相学の学士資格を取得し、観相学を取り入れた講談に挑戦中！